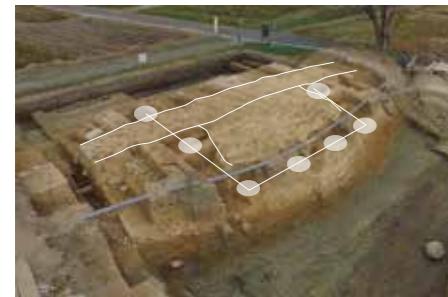


## 成果2 檻について

調査区の中央で、築地塀に取り付く櫓1・2を検出し、櫓1のあとに櫓2が造られています。櫓1は最初に築地塀が造られた第Ⅱ期以前に築地塀と一緒に建てられており、その後に2回の建て替えが考えられます。したがって、この場所の櫓は、櫓1で3時期、櫓2で1時期あり、都合4時期の変遷があることがわかりました。

櫓1は東西3間(6.4m)、南北2間(5.6m)の建物で、築地塀をまたいで建てられています。南側では東西6.6m以上、南北4.2mの土壇の上に造られており、土壇に3時期の変遷があることから、建物も2回建て替えられたと考えられます。建物の柱は最も新しい3時期目が礎石式、2時期目は掘立式の構造で建てられています。最初の建物の柱構造はまだ不明ですが、そのときの土壇が築地塀脇の最も古い平坦面の上に造られていることから、第Ⅱ期以前に築地塀が造られたときに櫓も一緒に建てられたことがわかりました。第Ⅱ期以前の櫓はこれまで外郭東辺では見つかっていましたが、今回の調査で南辺にあることが判明しました。

櫓2は東西3間(9.6m)、南北1間(2.1m)以上の礎石式の建物で、3回目の嵩上げ整地の上に建てられています。築地塀の北側のみで礎石とその根石が見つかっており、南側を築地塀の上に乗せる構造の櫓とみられます。2ヶ所に残る礎石は長さ60~70cmの上面が平らな石で、そのうちの1つには柱を立てる位置の目印として十字の線が刻まれています。古代東北の城柵遺跡で今までに見つかった櫓は掘立式の建物でしたが、今回多賀城で初めて礎石式の櫓がみつかりました。



▲ 土壇と櫓1（南西から）



▲ 櫓2の礎石と根石（北から）



▲ 稽石に刻まれた十字線（南東から）

## ○まとめ

- この場所の築地塀と櫓の詳しい状況が明らかになりました。第Ⅱ期以前には築地塀や櫓の補修が無いことから、この場所に外郭南辺が造られたのは第Ⅱ期の可能性が高いとみられます。
- 櫓は、この場所に外郭南辺が造られた当初からあり、南辺でも第Ⅱ期以前の櫓の存在が判明しました。また、平安時代には礎石式の櫓が建てられたことが初めてわかりました。

### 調査要項

所在地：宮城県多賀城市市川字立石地内  
調査指導：多賀城跡調査研究委員会（委員長 佐藤 信）  
調査主体：宮城県教育委員会（教育長 高橋 仁）  
調査担当：宮城県多賀城跡調査研究所（所長 山田 晃弘）  
調査協力：多賀城市教育委員会  
調査員：山田 晃弘・吉野 武・三好 秀樹  
白崎 恵介・廣谷 和也・高橋 透  
調査期間：平成27年7月27日～平成26年11月（予定）  
調査面積：約390 m<sup>2</sup>



多賀城跡調査研究所  
〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1  
TEL: 022-368-0102  
FAX: 022-368-0104  
<http://www.thm.pref.miyagi.jp/kenkyusyo/>

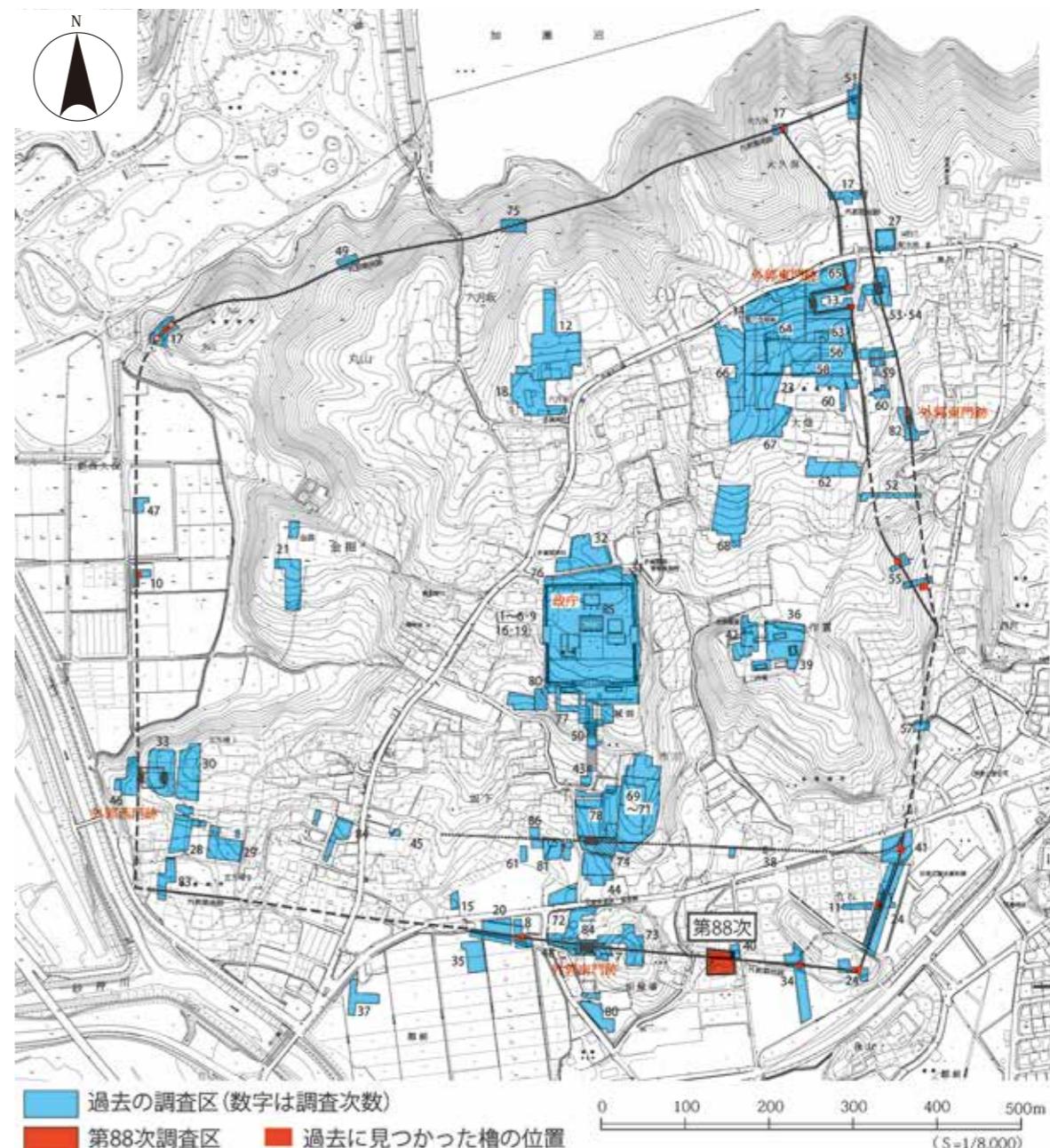
# 多賀城跡

平成27年  
第88次発掘調査現地説明会  
11月7日（土）午前10:00～

## ○はじめに

多賀城跡調査研究所では、昭和44年以来、特別史跡多賀城跡の発掘調査を計画的に実施し、遺跡の実態解明に向けた研究をしています。近年は多賀城の外周囲を囲む外郭施設の様相を明らかにするための調査を進めており、今年度は立石（外郭南辺東半）地区の調査を実施しました。

外郭南辺は、東西方向に870mにわたって延びており、ほぼ中央に南門が設けられています。今回調査したのは、今でも土壘状の高まりが残る外郭南辺東半の中央部で、周りには低湿地が広がっています。近年の調査で、多賀城の第Ⅱ期（762～780）以降の外郭南辺は、第Ⅰ期（724～762）の位置から約120m南側に移ったことがわかつきましたが、今回の調査では、この場所でもそれを確認するとともに、第Ⅱ期以降の外郭南辺の残存状況・構造・変遷などを明らかにすること目的としています。



築地塀を長さ 15m にわたって検出するとともに、築地塀に取り付く櫓を発見しました。また、築地塀に関わる施設として、土台となる基礎盛土、犬走りを含む築地塀両脇の嵩上げ整地や寄柱の礎石、櫓に関わる施設として土壙が見つかりました。土壙状の高まりから築地塀



▲ 調査区遠景（南東から）

南から沢が入り込む地形を横断する形で、外郭南辺が東西に延びています。



▲ 調査前状況（北東から：7月撮影）

当時の名残が土壙状の高まりとして残っていました。城内でも築地が最も良く残っている箇所の1つです。



▲ 調査区空撮（上が北）



▲ 焼けた瓦の出土状況（北東から）



▲ 築地本体の断面（西から）



▲ 寄柱の礎石（北東から）



▲ 北側の材木列（東から）  
土留めとして使われました。